

少子化対策及び移住、定住の促進について

葛山 繁隆 議員

少子化対策として継続的に行っている、経済的な負担軽減策について伺います。

国民健康保険加入者を対象に支給している出産に関する一時金について、令和5年4月から50万円に増額する予定です。また、子ども医療費の助成について、昨年10月から市独自の事業として、助成対象を高校3年生相当までに拡充しています。

さらに3歳以上の幼児教育・保育の無償化、多子世帯の保育料や給食費の軽減を実施するほか、出産・子育て応援

援給付金事業も実施しています。

移住、定住策について、今後の事業展開を伺います。

住みたい、住み続けたい、訪れたいと思えるまちの実現に向けた事業を展開していきます。子育ての分野では子ども医療費の助成、保育料や学校給食費の減免など、経済的な支援をはじめ東部地区に新たな児童センターを整備するとともに、未就学児が楽しめる水遊び場を整備していきます。にぎわいの創出、緑の保全としては、初富駅及び北初

高齢者支援の充実について

矢崎 悟 議員

介護老人保健施設、特別養護老人ホームの待機者数と今後の整備計画を伺います。

待機者数は令和5年1月時点で28名です。令和5年度と令和6年度に各1施設100床の施設を整備する予定です。

介護予防に資する取組やボランティア等に参加した際に、ポイントを付与する制度の導入について、これまで一

今後の行財政運営について

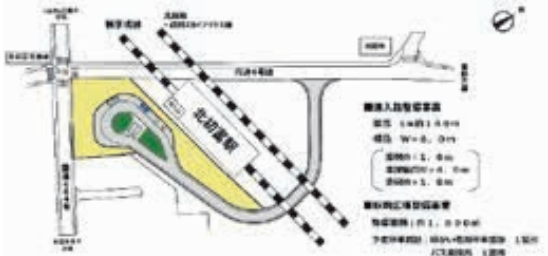
松澤 武人 議員

平成19年度から取り組んできた行財政改革の主な内容を伺います。

行政評価制度による全ての事務事業の抜本的な見直し、職員数の適正化による人件費の抑制、市独自の給与削減策の実施、指定管理者制度の導入、公共施設使用料の見直し、市税等の徴収率の向上、車座集会等による職員の意識醸成

などに取り組んできました。公共施設の築年数の状況を伺います。市有建築物70施設140棟のうち、築30年以上40年未満が28棟、築40年以上50年未満が46棟、築50年以上が32棟となり、築30年以上の建物が75.7%を占めています。公共施設維持管理の今後の方針を伺います。

富駅前広場、新京成線の関連側道、千葉県が所有する東京10号線跡地の活用、(仮称)緑道及び新たな都市計画道路を整備していきます。



北初富駅前広場の整備計画図

これからのデジタル社会を見据え、スマートフォン等の使用に不慣れた高齢者向け講座の開催について、市の見解を伺います。

市公式LINE情報発信事業を令和5年3月に開始するにあたり、市内各公民館等を会場とし基本的な使い方などの説明会の開催を検討しています。また、中央公民館の自主事業として、初めてのスマートフォン体験教室を令和5年度も実施する予定です。

北千葉道路沿道の土地利用について

宗川 洋一 議員

北千葉道路沿道の土地利用として、仮に「道の駅」を設置する場合、どのような機能が考えられますか。

市には道の駅の計画はありませんが、近隣の事例などを踏まえ想定される機能としては、駐車場やトイレなどに加え、市の特産品である梨をはじめとする農産物や各種商品の販売機能、レストランなどの飲食機能、市の行政等の情報発信機能、シェアサイクルなどの移動機能、さらには体験・学習機能や防災機能などがあります。今後、道の駅の設置の可能性なども含めて、土地利用のあり方について検討していきます。

市では北千葉道路沿道の土地利用の検討についてどのように進めていきますか。

都市計画マスタープラン

不登校児童生徒の対策について

伊福 幸一 議員

対面の相談に比べて場所や時間の制約を受けずに柔軟に相談スケジュールが組めるオンラインカウンセリングの導入について、市の見解を伺います。

学校で対面の相談ができない場合、電話相談を行うことは可能ですが、オンラインカウンセリングについても今後検討が必要な課題と捉えています。

フリースクールに通つたための費用に対する補助金について、市の見解を伺います。

フリースクールに通うための費用は、不登校の子どもの抱える家庭にとって負担のあるものと認識しています。

国道・県道の歩道について

佐竹 知之 議員

国道404号及び県道59号について、道路管理者である千葉県は国のガイドラインに沿って歩道の拡幅を進めるべきと考えますが市の認識を伺います。

国道404号及び県道59号通称木下街道は市の主要道路であり、交通量も多く歩道が設置されていない区間もあるため、市民から歩道の新設等について多くの要望等をいただいています。市では、安全で

市における地域公共交通整備の課題を伺います。

国土交通省が示す都市構造の評価に関するハンドブックでは、バス停留所を中心に半径300mの範囲をバス停留圏、鉄道駅を中心に半径800mの範囲を駅圏としており、これを市に当てはめると一部に空白地域が生じています。また、南部地域においては、東京10号線延伸新線計画が廃止となり、当該地域の公共交通ネットワークが課題となっています。

地域公共交通の体系的整備について

佐藤 剛 議員

白地域が生じています。また、南部地域においては、東京10号線延伸新線計画が廃止となり、当該地域の公共交通ネットワークが課題となっています。

コミュニティバスの運行を補完する地域公共交通として、デマンド型交通の導入に

(仮称)東部地区児童センターについて

後関 俊一 議員

(仮称)東部地区児童センターは、敷地が約2,200㎡、建物が600㎡のことで、他の児童センターと比べてどの程度の規模になるのか伺います。

コミュニティセンターを併設していない単独の施設と比べると、敷地面積、建物延べ床面積ともに大きな規模となります。

(仮称)東部地区児童センターの設備について伺います。

建物内には集会室、遊戯室、保育室、ホールなどを設置し、屋外には複合遊具、ブ

ん。市内の歩道拡幅計画の進捗状況を伺います。

現在4カ所で歩道拡幅整備を行っており、1つ目は国道404号のくぬぎ山交差点付近から新京成線のくぬぎ山1号踏切までで、用地取得を進めています。2つ目は県道船橋我孫子線の栗野十字路交差点から東邦鎌谷病院付近までで用地交渉等を行っています。

3つ目は鎌ヶ谷大仏交差点改良事業で歩道拡幅整備を進めており、4つ目は初富交差点改良事業で用地測量を実施しています。

この見解を伺います。

デマンド型交通は、電話予約など利用者のニーズに合わせて乗り合いタクシーなどを利用し、柔軟な運行を行う公共交通の一つの形態です。デマンド型交通については近隣市で実施しているのは柏市と印西市ですが、全国的にも様々な導入事例があることから、先進市の状況等も含め調査研究していきます。

掲載するとともに、近隣の小中学校や東部地区の子育て支援事業を利用している方へチラシを配布するなど、積極的に周知します。



(仮称)東部地区児童センター 外観イメージ図